

被災者に入浴サービス

最上地域の農業者協会 石巻で病院の建物借り



入浴サービスを始める浴室で「山形発の復興支援の輪が広がれば」と語る長田邦彦社長＝石巻市伊原津

同協会が石巻でボランティアを行うようになったのは3月下旬。「有機栽培米を購入してくれたお客さんの安否を確認した際、石巻の恵愛病院だけが不明だった」。長田社長が直接駆け付けてみると、医師やスタッフらが不眠不休で奮闘していた。その後、燃料や食料を運んで炊き出しをしたり、病院職員の衣服を山形に持ち帰って洗濯して返すなど、本県と石巻を往

東日本大震災で被災したお年寄りや身体障害者らを支援しようと、農業生産法人・新庄最上有機農業者協会(鮭川村、長田邦彦社長)はあす26日、津波で閉院した病院の建物を借り、宮城県石巻市伊原津で入浴サービスを始める。入浴サポートのため、ヘルパーの資格を持つボランティアを募っている。

あすから「4、5年は続けたい」

東日本大震災

復する日々が続いた。2階建ての病院は1階が完全に浸水、被害が大きかったことなどから病院側は再建を断念した。農業者協会は施設を無償で借り受け、ボランティアセンターとして運用することにした。

浴できるゆったりサイズ。ボイラーとシャワーの設置工事が終わり、26日から使用できることになった。当日はちらちらの炊き出しを行い、新庄市の若手職員有志がTシャツや肌着などの夏物衣料を無料配布する。

長田社長によると、約300世帯の伊原津地区は津波被害のため、現在は半分ほどしかないという。それでも、1階部分が浸水し風呂を使えない被災者が多く、入浴サ

サービスに対するニーズは高い。石巻市が無償提供する水を除いて、電気代や灯油代は全て持ち出し。「惨状を目の当たりにして、可能な限り手を差し伸べるべきだと思った。4、5年は活動を続けたい」と長田社長。「施設には広いホールがあり、入浴だけでなく住民のだんなの場もつくりたい。山形発で復興支援の輪が広がればと願っている」と話していた。問い合わせは

新庄最上有機農業者協会02-333-5110 333833。